

# カジノ・万博いらないぞ！

1月21日18時30分より、エルおおさか6階大会議室で開催された「1・21カジノ・万博を考える討論集会」に、約100名の参加で、大阪支部からは執行委員7名と分会から2名が参加しました。まん延防止が発令される直前でしたが、感染防止対策（検温・消毒）の徹底をされ安心して討論集会に集中することができました。

討論に向けての問題提起では、「夢洲の都市計画変更を考える市民懇談会」事務局長の武田かおりさん、大阪府議会議員の野々上愛さん、「どないする大阪の未来ネット」事務局長の馬場徳夫さんの3名から問題提起がありました。

たちが住む大阪府は今後20年の間に道路橋をはじめ港湾施設や下水道設備、河川管理施設などの耐用年数の限界を迎えようとしています。このようなインフラ整備の課題も山積みになっています。わたしたちの血税が大阪府府議会でどのように議論されて使い道を決定しているのでしょうか。



すべてではありませんが「専決処分」(\*)という方法を用いて決定され議会で議論をされずに決済されているのです。しかも専決処分率は、47都道府県の中で大阪府が46.8%とワースト1位です(2位以下は20%以下)。政令市で見ますと1位はもちろん大阪市で86.9%、2位は堺市84.2%と不

名誉な結果となっています。大阪港湾局作成の「大阪港埋立事業(うち夢洲土地造成事業)収支見込み」では、累積資金残高が2029年にプラスになった後は、2076年まですべてマイナスに転じてしまいます。

私が討論集会でいただいた資料には、先述した大阪府行政の問題から防災面やインフラ整備の課題、国連銀行責任(RRB)に署名している銀行がギャンブル産業へ投融资することへの問題など、詳細なデータをわかりやすく説明されました。

住民投票が実施されることになれば4月が濃厚かと思われます。その際は皆さんと「カジノ反対」と団結できればと思いこの記事を作成しました。

(\*)「専決処分」とは。本来、議会の議決・決定を経なければならない事柄について、地方公共団体の長が地方自治法(昭和22年法律第67号)の規定に基づいて、議会の議決・決定の前に自ら処理することをいう。

(執行部 佐久原 智彦)

# 何も変わらない原発事故から11年

福島第1原子力発電所事故から11年が過ぎました。しかし隠された放射能汚染と不透明な被ばく問題は何も変わっていません。

何らかのトラブルで冷却水が停止すれば大量の放射能汚染拡大が懸念されます。私たちは現在の豊かな生活の基盤として電気を使用しているが、原発を使わなければ賄いきれない程の電気は必要なんではないでしょうか。電気の使用を抑えることにより危険な原発が無くても持続可能だと思います。原発事故以降、日本にあるすべての原発は約1年停止しましたが電気不足にはなりませんでした。

喜びました。しかし、山仕事をしていた松下さんは異常なまでの補償を疑問に思い、原発についていろいろ調べていくうちに放射能の危険性を知り「もし事故が起きれば大惨事になる」と訴えることを決意して原発反対運動をしています。



松下さんは「現在まで原発反対運動をしてきましたが、やり方を間違っていないのか、デモ行進、原発の前でのシュプレヒコールもやってきたが何も変わらなかった。原発反対を訴えるだけでは意味がない、反対する人びとが少しでも原発及び放射能とは何か理解し、原発が必要な程の莫大な電気が必要なのか、そして作られた電気がほとんどが都市部に送られている。これを理解した上で原発の代わりに代案を出しながら反対していかないといけない。そして現地の運動だけでなく莫大な電気を消費している都市部からの声を上げていかないと原発は決して無くならない」と語られました。

政府、放射能汚染水を放出へ

現在は東京電力福島第1原子力発電所に貯まる128万トン以上の



放射能汚染水を太平洋に放出することを決定されています。処理水にはトリチウム、ストロンチウム90、炭素14などの放射性物質が基準値をこえて残留しています。それをいくら海水で薄めても、海に流れ出る放射性物質の総量が減るわけではありません。廃炉の目処が立たない福島第1原発では、最終的にどれくらいの放射能汚染水が出ることになるのかもわかっていません。

私は、原発反対運動をしていく中で原発は危ないから使うのをやめよう、原発は必要ないと声を上げるのも大切ではあるけども、反対するだけでなく原発ゼロを目指すために今後どういうエネルギー転換をするのかなど学習した上で反対運動をしていかなければならないと思いました。

(教宣部 林 涼史)

# 2022 元旦行動

2022年1月1日10時から、大阪府警前で恒例行事となった「元旦行動」が開催されました。参加者は昨年を超え、約400名でした。

主催者あいさつとして小林委員長から「明けましておめでとうございます、とは言いません。わたしたちはまだ闘いの最中にいます。完全勝利する日までとっておきます」と気を引き締められる一言がありました。

私自身、2年続けての元旦行動でした。参加したきっかけは執行委員になり、反弾圧実行委員会・大阪の

委員になったことです。はじめて参加した時は正直なところあまり理解できておらず、指示があったから参加をした程度でした。あれから1年、反弾圧実行委員会の会議に参加し、さまざまな労組の方と知り合い、そして集会やデモを経験し、7・13判決をはじめ、12・13判決を傍聴しました。

昨年は数々の無罪判決をはじめとする反転攻勢へのきっかけとなる判決が次々と出ました。12・12の「弾圧をはねのけよう! 全国同時ア



クション」では大阪だけで700名を超える参加がありました。

まさに、反転攻勢を期す2022年が幕を明けました。完全勝利するためには皆さんの力が必要です。皆さんと認識を深め団結していけたらと願います。共にがんばりましょう。

(執行部 佐久原 智彦)



昨年12月、いたみホールで開催された「さよなら原発1000人集会」で松下照幸さん(美浜町議会議員)は、福島県美浜町は商業地が少なく原発建設の話が発端となり、町に雇用が生まれ、人が増え、町が潤い、美浜町の税収も増え、町民に対するいろいろな補償も豊潤になり、町の人びとは自分たちの生活が保障されたことに

▼次回集会パンフ



2022年3月13日  
エルおおさか 大ホール